

why, what, how, when?が重要である。

1. Why: なぜ論文を書くか? 自分の行った仕事を文章に残すことで、ほかの人々へ発信できる。
2. What: 論文はどんなものでも良い。症例報告、臨床研究あるいは基礎研究でも良い。症例報告でも他誌に引用されうる。また症例報告であったも、まず何か一つ論文として仕上げるのが重要である。
3. How: ほかの人が書いた論文を参考にして書いてみる。また自分に出来る範囲内で論文を作成して試みるのが重要である。

例えば、positive remodeling を有する病変は POBA 後の TLR が高いことが論文として発表された。これを参考にして、stent 後ではどうか? DES ではどうか? POBA 後の再狭窄の機序は? などのように発展させることが重要である。

また、late stent incomplete apposition が話題になっているが、放射線治療後、BMS 後、DES 後ではどうか?

このように、1つのトピックがあれば、それをもとに自分で新たな研究を行い論文を書くことが出来る。

また、重要なこととして、接続詞を上手に使いこなすことが重要である。例えば、therefore, thus, because, since, consequently, accordingly, on the other hand, furthermore などである。

4. When: 大学院や留学中にある時間を利用すると良い。それ以外には、移動中の飛行機、電車内や、アルバイト中、日常業務の後でがんばるなどあげられる。
5. まとめ: 自分で idea を出す、計画した idea の 1/10 が論文になれば良い、英語をしゃべれる人が、良い論文を書けるわけではない、粘り強くがんばる。